国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
事業期間を通じた評価

国立大学法人金沢大学　学長　殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の事業期間を通じた評価について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり評価結果をお示しします。
あわせて、本検討会の所見についても別紙のとおりお示しします。

記

A	当初の構想どおりの取組が行われ成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

（別紙）

国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の
事業期間を通じた評価

国立大学法人　金沢大学

（検討会の所見）

○　従前から比較優位を有する特定の分野（ナノマテリアルやナノ生命科学等）にとどまらず、全学を巻き込む経営改革が進められていると評価できる。KPI もおおむね目標を達成できているなど伸びており、今後は北陸の他の3大学との連携による北陸全体としての取り組みから得られる知見等を活かしつつ、学内の資源再配分をさらに進めていくことが期待される。

○　いくつかのグッドプラクティスを全学展開するという、全学の構成員にとってもポジティブな刺激を与え、意欲的に取り組める基本的な理念を中心に据え、それを増幅させる独自の具体的な改革プランを設定して、迅速に事業を展開し、短期間で KPI にも現れているように着実に成果を上げている。

　社会との連携についても、投資を得て成果を社会に還元するという好循環を実現し、北陸地区での大学連携に関しても共創フォーラムの構築を進め、令和3年度の本事業における北陸4大学での連携事業へ繋げて、地域の大学だけでなく社会の活性化にも取り組んでいる。

○　明確な戦略により、Tactic1と Tactic2は極めて順調に進展している。Tactic2で更にどこまで全学に展開していけるかが今後の課題。一方、Tctic3については、KPI は達成しているものの地域との連携に改善の余地がある。北経連との連携を含めながら、地域における役割が拡大することを期待している。

○　金沢大学の特定の研究に関する取り組みは以前から成果を挙げているが、文系分野の学際的な研究にも取り組もうとしていることも理解した。一方で、「地域国立大学」「地域の知識のハブ」としての研究大学という性格を考えた場合、地域のマルチステークホルダーの姿がまだ明確ではなく、北陸地域での大学連携の実態が肝になるのではないか。

○　地方国立大学に求められる機能強化は、大学独自の研究強化だけでなく地域でのリーダーシップを発揮し、魅力ある頼りになる拠点となることも重要な点である。今後はより行政機関との連携を強化し、経営改革にまい進していただきたい。

○　より地方自治体、特に県庁との連携を強め、地域の中核大学としての役割強化を期待したい。

次項あり

○　卓越研究領域への重点投資に基づいて特定研究分野を開拓しようという構想であるが、外部資金獲得が目的化しているように見える。獲得した資金を大学の重要な使命である人材育成にどのように活かしていくのかという視点もさらに考慮する必要があるのではないか。また、地方大学のロールモデルを謳いながら、産業振興とそれによる大学の財源獲得に注力していて、地域社会との連携が希薄な感が否めない。